

アノチヨコ

エッセー

本文

あるところに、知りたがりの一匹のアリがいました。名前は、チョコ。女の子です。

チョコは、暗くて、狭い巣穴で生まれました。だから「光」というものを見たことがありません。光どころか、自分の手足さえ見たことはないのです。なぜって、真っ暗な世界で、真っ黒い手足を動かしても、ごっちゃごっちゃのままなんですもの！

チョコが知っているのは、お姉さんアリから聞いた話だけでした。巣穴の外は、寝返りを打っても、壁や天井にぶつからないんですって。走っても、転んでも、ゴツンとしないなんて夢のようです。チョコは、外に出たくてたまりませんでした。

ある日、とうとうお姉さんアリの目を盗んで、こっそり外に飛び出してしまいました。

チョコは、嬉しくて、嬉しくて、走り回りました。転んで、滑って、踊りました。あんまりはしゃいで、お腹がすいてしまいました。チョコは、巣穴に帰ることにしました。

ところが、前も後ろも、右も左も、何もありません。チョコはすっかり迷子になってしまいました。

「そうだ。お姉さんアリが言っていた。この世界は、ぐるりと高い壁に囲まれていて、その上には別の世界があって、そのまた上にも違う世界があって、光の世界はずっとずっと上にある。歩き続けて高い壁さえ見つければ、きっと光の世界に行けるはず。茶色い木の板が見えるはず。行ってみよう」

チョコは、前へ、前へと歩き始めました。

歩きながら、1、2、3、4と数を数えました。しかし、10を超えても、100を超えても、1000を超えても、壁はありませんでした。けれど、3875数えたところで、とうとう壁にぶつかりました。世界の広さを知ったチョコは、大喜びです。腹ペコでも元気いっぱいです。さっそく壁をのぼり始めました。

壁は案外低く、1700で天井にぶつかりました。けれど、上の世界の入り口はどこにもありませんでした。チョコは、がっかりしました。すると突然、闇の中に小さな点が二つ浮かびました。二つの点はチュウチュウと鳴きながら、チョコに近づきました。

「わたしはアリのチョコ。誰かいるの？」

「ああいるとも。アリよりも大きくて、強くて、かしこいねずみのギータさまだ」

「ねずみのギータ？」

「ちがう。ねずみのギータさまだ。お前に、俺のすごさを見せてやる」

ギータがしっぽを一振りすると、チョコは背中に持ち上げられてしまいました。ギータが上へ駆けだしました。黒一色の世界が、色を帯びはじめました。

「外に出る。振り落とされるな！」

ギータは、光輝く穴に飛び上がりました。すると猛烈な風が吹き抜けました。チョコは、紙吹雪のように吹き飛ばされ、光に包まれました。不思議と怖くはありませんでした。むしろ、世界を見る喜びにあふれていました。

足元には広くて平らな世界と、世界を囲む高い壁があるはずでした。ところが、チョコが見たのは、うねうねとゆらめく青と白の世界に浮かぶ、アリほどの小さな船の姿でした。

船から遠く飛ばされたチョコの身体は、波に落ち、沈んでしまいました。

メッセージ

満月は、夕方東の空に昇り、真夜中に南の空を通過して、明け方西に沈みます。

太陽が沈むと、満月が出る。

新月は、太陽と一緒に昇って沈みます。

ちゃんと理由があって、そうなる。

その理由を知らなければ、答えを暗記しても面白さは分かりません。

人は、学校を見渡すことができます。だから、アリの巣がどこにあるのかすぐに覚えられます

。

しかしアリは、学校を見渡すことができません。だから、巣穴がどこにあるのか覚えることは難しい。まして、学校の外にも町があって、町の外にも別の町があることなど、知りようがない

。

ところが人は、見渡すことのできない宇宙の形を知っています。それって、すごいことだと思わない？

昔は、止まっている地球の周りを、太陽や月や星が動いていると考えられていました。ところが、動いているのは地球だったのです。止まっているのは太陽だった。そして、月は、本当に地球の周りを回っていた。

アリになったり、地球より巨大な生き物になったり、大きさを変えて世界を見るのが理科の世界です。だから、答えを丸暗記して、テストで満点取っても、視点を変えて世界を見ることのできないなら、面白さは分からない。

知らないことを知れば、それまで信じていた世界が変わります。新しい人間に生まれ変わる。けれど隠れた意味を知らないままなら、生まれ変わることはできません。世の中を知ったことにはならない。

わたしが、「満月はいつごろ東の空に現れるか？」を知ったのは、30歳を過ぎてからです。だから、今すぐ天体の運行が理解できるとは考えていません。しかし、テストでマルをもらうことしか気にしないのは、悪い態度です。

チョコは、船の底で生まれて、海に落ちて死にました。でももし、生き延びて、巣穴に戻って仲間に伝えたなら、船から陸地に降りて、違う暮らしを始めたかもしれない。

そんな偶然の積み重ねで、人の歴史も、便利な道具も、今、ここにあります。

だから、テストの点にこだわらず、隠された意味に興味を持ってください。

もし、意味が分からないなら、「分かっている」と言い張るのはよしましょう。仕組みを理解しないまま、テストの点を自慢に思って、「わたしは何でも知っている」と言うのは、とてもかっこ悪いです。

本当に仕組みを知っている人は、まだ解明されていないことがたくさんあると知っています。だから、「何でも知っている」などと言いません。

あとがき

発端は、冬休み前の個人懇談でした。

担任の先生から、「子どもが日誌を書いたら採点して、復習させてください」と言われました。

娘は、すぐに日誌を終わらせました。しかし、バツをつけられるのが嫌で、わたしに見せようとしませんでした。

採点した結果は、普通でした。うっかりミスが多いけれど、だいたい分かっている。でも、天体の運行だけは、まったく分かっていませんでした。だから、太陽と地球と月の図を書いて教えようとした。でも、まったく聞こうとしませんでした。

よく考えたら、わたし自身、教科書でその図を見ても理解できなかった。でも、今の状態がいいとは思いません。どうしたらいいのでしょうか。そもそも、わたしは、娘に何を伝えたいのでしょうか？

わたしの答えは、「視点を変える」を実感することでした。だから、人間とは違うアリの視点で物語を書くことにしました。

娘は、本を読むことが好きなので、わたしが書いた物語を読んでもくれました。しかし、一番伝えたかったことが伝わったのかどうか、分かりません。

よそのお家では、どうしているのでしょうか？